

活動内容と被害者の実態

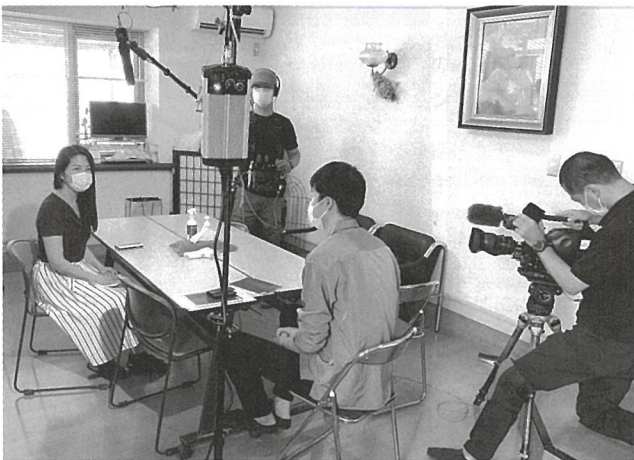
岡山県津山市 特定非営利活動法人オリーブの家

私たちは、岡山県津山市に拠点をもち、電話・メール・SNSにて365日の相談業務、貧困母子家庭へのアウトリーチ支援活動、DV被害女性と親子のシェルターでの保護、学習支援、居住支援、セミナーなどを通じたDV予防・啓発活動、専門家による心のケア等の活動を行う団体です。家庭内の男女間で問題を繰り返さないためのアドバイスや個人・家族カウンセリングも行っております。

とがきっかけです。相談を受けている方の中には、「なぜニュースにならないのか?」と驚くようなことを強いられている女性や、「犯罪では?」と思うほどのことをされて心が崩壊しそうなお母さんやお子さんに出会うことが多くありました。明らかな貧困状態なのに誰にも助けを求めることができず病になっていた方にも出会いました。このような母子や女性の苦しみを見て聞いている社会人として、一人の女性として、親として、その方々を放っておけないと感じカウンセラーの域を超えた活動が必要だと考え、自宅を開放し一時保護から活動を開始しました。そして、東日本大震災の年、2011年に震災で家や家族を失い貧困に陥った親子の受け入れ活動も行い、2017年12月にNPO法人として活動を開

団体設立の経緯は、元理事長（現在特別顧問）の山本康世の仕事である心理カウンセラー業務の中で深刻な現状を目の当たりにしたこ

とがきっかけです。相談を受けている方の中には、「なぜニュースにならないのか?」と驚くようなことを強いられている女性や、「犯罪では?」と



NHK取材の様子



始まりました。

法人としての活動が5年目になり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、DVの相談件数が全国的に増え、当団体にも2022年度貧困ひとり親家庭・62件、DV被害女性・308件、DV被害男性・52件、DV加害男性・11件、子どもからの通報・11件、ストーカー・12件、行政・他団体106件（計・456件）の相談が寄せられました。また、その中でも当法人の保護シェルターで116名（同伴児童含む）を実際に保護しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛が、もともとDVが行われていた家庭に追い討ちをかけているケースも多くありま



イオンでの募金活動

す。また、被害者と加害者が関わる時間が長くなったため、潜在化していたDVや虐待が顕在化しエスカレートし、全国的に相談件数の増加、深刻な現状です。保護した方のエピソードを紹介したいと思います。

エピソード

コロナ禍でDV被害を受ける母と娘からのSOS

「お母さん、顔や腕の傷どうしたの？なんで急に引越さなきゃいけないの？」

お母さんは、「階段から落ちたの・・・もうここにはいられないのよ。ごめんね」

10歳の女の子には状況が理解できませんでした。最寄りの警察から連絡がありました。お母さんとお母さんを緊急保護いたしました。お母さんの顔の約半分は包帯で巻かれ、腕には広範囲に青アザがありました。肋骨は折れていて致命的ではない刺し傷がお腹に痛々しく数か所もありました。

「どうしてこんなことになるまで我慢したの？」と聞くとお母さんは、

「とにかく怖かったです。私がいらないから怒らせてしまうんです。私さえ我慢すれば、娘のためにも・・・でも・・・もう疲れた



シェルターの子どもと自然学習



シェルターのこどもの知育

んです。死んだ方が楽かなと思って・・・」
このとき、このお母さんは、まだマインドコントロールが解けていませんでした。ポロポロの体と心なのに、自分を責めていました。自宅では子どもがいなくて眠ってからは頻りに、お母さんはDV被害に遭っていました。子どもに心配かけてはいけないと必死に隠していました。



スタッフの仲間

しかし、その日パートナーにほんの少し抵抗したのです！「やめて！もう別れたい」その言葉に逆上して、暴力は一線を超えました。彼女が知らない関係のない仕事でのストレスのことも大声で叫びながら殴り続けられ気を失ったそうです・・・パートナーは警察に捕まりました。

その後、シエルター内で安心した暮らしをされて心身の回復もされ、パートナーとの裁

判を経て、離婚、示談が成立。自立のめどが立ち退所後は安定した仕事にも就かれて、娘さんと2人で暮らしています。

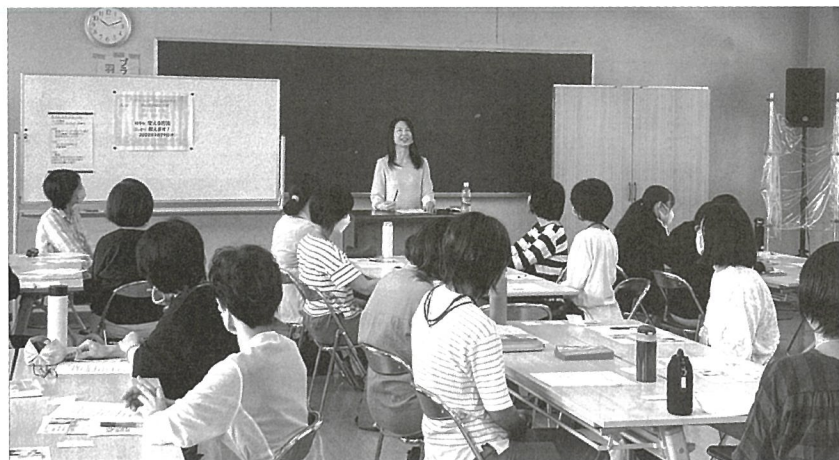
身体的な暴力だけでなく、精神的なDVによる病の発症や居場所を失っている被害者が多数おり深刻な状況です。ここで紹介した方のエピソードは、その冰山の一角でしかありません。私たちは、日々の活動の中で、そうした声を受け止め、抱きしめ、社会的に自立ができるまで支援をしています。そんな中、嬉しい言葉も多く届き、私たちの支えとなっています。

利用者 K・M君 小学3年男の子

お母さんがお父さんにいつもたたかれたりして怖かった。お母さんはいつも泣いてた。シエルターがどんなところ心配だったけど来てみたら綺麗で広くて好きになった。お母さんは前より泣かなくなっただけ、笑うようになったからほんとによかった。オリーブの家の人はやさしくておもしろい。

大切なばくのネコもつれてきていいよと言ってくれた。ばくとお母さんをたすけてくれてありがとう。

社会情勢の不安定さもあり、DV被害者は



セミナーの様子

増え続けており、子どもたちの心は傷ついています。そして経済的問題がひとり親にのしかかっています。今後もオリーブの家に助けを求めてくる方を出来る限りお救いして、社会自立へと導く役割を果たしてまいります。

元理事長 現特別顧問 山本康世